

開催日時		会 議 名		開催場所	
平成 22 年 5 月 22 日 (土)		2010 年度中央大学土木同窓会評議員会 (第 25 回)		中央大学理工学部 5 号館 1 階 5138 号室	
14:00 ~ 16:00					
主 催	中央大学土木同窓会	会議の種類	定例会議 (1 回/年)		
司 会	升本喜一 (事務局次長・S44)	記 録	清水英樹 (事務局・S61)		
配 布 資 料	① 2009 年度収支決算報告書・会計監査報告書(資料 25-1)、②2010 年度予算書(資料 25-2)、③ 2010 年度中央大学土木同窓会役員名簿(資料 25-3)、④2010 年度中央大学土木同窓会評議員名簿 (資料 25-4)、⑤2010 年度中央大学土木同窓会支部長・幹事長一覧(資料 25-5)、⑥2009 年度中 央大学土木同窓会会費納入状況(資料 25-6)、⑦2010 年度中央大学土木同窓会年間計画表(資料 25-7)、⑧土木同窓会ホームページについて(資料 25-8)、⑨2010 年都市環境学科/土木工学科近 況報告 (資料 25-9)、⑩中央大学創立 125 周年記念募金申込状況(資料 25-10)				
出 席 者 (順不同) (敬称略)	舌間(S32)、渡部(S32)、永松(S35)、佐藤 _明 (S36)、山川(S38)、瀧口(S40)、横田(S40)、千村(S41) 中村 _孝 (S42)、城(S43)、串山(S44)、鈴木(S44)、田中(S44)、田原(S44)、升本(S44)、臼杵(S46) 辻田(S46)、中村 _隆 (S48)、笠(S49)、高野(S50)、糸田(S51)、佐藤 _和 (S51)、柏岡(S52)、大熊(S53) 大越(S53)、熊谷(S54)、竹山(S54)、青野(S55)、檜山(S57)、小林(S60)、松友(S60)、小西(S61) 清水(S61)、深和(H4)、倉橋(H7)、上嶋(H19)、藤枝 以上 37 名				
議 事					
1. 開会挨拶					
司会 (升本事務局次長) の開会挨拶に引き続き、参加者の自己紹介がなされた。					
2. 会長挨拶 (串山会長)					
行楽シーズンの真只中にお集まりいただき感謝申し上げる。昨年は学科・同窓会ともに節目の年であり、様々 な行事を企画したが、皆様のご尽力により成功のうちに終えることができた。特にホームページのリニューア ルに関しては、情報の更新を活発にして同窓生交流の場を提供するとともに通信費削減などのしくみ創りに向 けた足がかりとしたい。2 年後には、都市環境学科の卒業生を迎えることになるが、同窓会のあり方について じっくりと議論を進めていきたい。本日は、各事項に対するご審議を宜しくお願いしたい。					
3. 挨拶 (舌間名誉会長)					
皆様には 3 つのお願いをしたい。1 つ目は創立 125 周年記念募金へのご協力である。学会会その他方面か らの協力要請もあるかと思うが、同窓会としてのさらなるご協力をお願いしたい。2 つ目は、茨木龍雄奨励金 についてである。創設から 13 年になるが、有効的な活用方法についてご議論を進めていただきたい。最後は、 都市環境学科と土木同窓会のあり方についてである。都市環境学科となり、優秀な学生が集まるとい う成果と なって表れている。これを大きな流れとしていくためにも、都市環境学科の卒業生が出てくる 2 年後までに同 窓会のあり方について今から議論を始めていただきたい。					
4. 教室挨拶 (檜山教授)					
今年度教室就任である姫野教授に代わり、都市環境学科の近況をご報告する。舌間名誉会長からのお話にも あったように、土木工学科から都市環境学科になったことにより、入学者の偏差値が 5 ポイントアップした。					

議 事

要因としては、定員が130から80人になったこと、女子学生が2割を占めるようになったことなどが考えられるが、学生が講義をよく聞くようになり、講義後の質問も増えるなど教え甲斐が出てきたのは事実である。新生学科を名実ともに充実させていきたい。その他近況報告として、校舎の改築に伴い、来年9月に教室の移転が予定されている。また、松尾先生がこの3月末で退官されたが、後任の補充は行わない。

5. 議長選出

串山会長が議長として選出され、以後の議事進行が行われた。

6. 議事

[1] 報告事項

(1) 2009年度事業報告

升本事務局次長より、2009年度の事業報告がなされた。質疑事項は特になし。

(2) その他

田中副会長より、同窓会の現況と今後のあり方について報告がなされた。

・同窓1万人を擁する組織となったが平均年齢は50歳強、会を支える会費納入者の平均は57歳となっている。つまり、S49年卒までの同窓会創成期世代が会費の55%を支えている状況で、同窓会に対する世代間の認識のズレが顕在化している。

・2年後には都市環境学科の卒業生を迎えることになり、会のあり方（名称をどうするか等）をはじめ、会費の金額や納入方法も含めた具体的な方向性について、議論を開始しなければならない。もちろん、大学の先生方との協議・連携も不可欠となることから、準備委員会を組織して議論を進めていく予定

[2] 審議事項

(1) 第1号議案「2009年度決算報告および会計監査報告について」

資料25-1にもとづき、田中副会長より2009年度の決算報告ならびに瀧口監事より監査報告がなされ、承認された。

(2) 第2号議案「2010年事業計画について」

升本事務局次長より、議案書にもとづき2010年度事業計画案の報告がなされ、承認された。

(3) 第3号議案「2010年度予算について」

田中副会長より、資料25-2にもとづき2010年度予算案の報告がなされ、承認された。今年度は名簿発行年に当たるため、名簿整理費（80万円）と名簿印刷費（180万円）が計上されている。

(4) 第4号議案「2010年度役員について」

升本事務局次長より、資料25-3、25-4、25-5にもとづき、2010年度役員、部会構成、評議員の報告がなされ、下記事項を修正の上、修承認された。

・「資料25-3」タイトル 【誤】2009年度 → 【正】2010年度

・「資料25-4」P.3 【誤】33.大旺建設㈱ → 【正】33.大旺新洋㈱

・「資料25-5」P.1 【誤】33.大旺建設㈱ → 【正】33.大旺新洋㈱

(5) 第5号議案「土木同窓会ホームページの開設と運営について」

清水事務局員（ホームページWG担当）より、資料 25-8 にもとづき、同窓会ホームページのリニューアルオープン報告がなされ、アクセス方法や利用方法に関する基本事項の説明ならびに会員登録の呼びかけが行われた。

[3]その他の事項

(1) 会費納入状況

田中副会長より、資料 25-6 にもとづき、会費納入状況が報告された。2009 年度（2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日）の最終的な納入者は 837 名と漸減したため、550 名に再度納入のお願い状を送付した。依然として昭和 30 年、40 年代の卒業生の納入率が高く、平成の卒業生の納入率が低い現状が報告された。

(2) 2010 年度年間計画

升本事務局次長より、資料 25-7 にもとづき、2010 年度の年間計画が報告された。

(3) 中央大学創立 125 周年記念事業への参加と協力について

舌間名誉会長より、資料 25-10 にもとづき、中央大学創立 125 周年記念募金の申し込み状況の報告がなされた。理工学部各学科同窓会の中では最多となる 10,129,204 円 (+40,000 円) の寄付金申込状況であるが、さらなるご協力をお願いしたい。

質 疑 応 答

・前年度予算をそのままスライドさせるような予算の組み方ではなく、前年度の実績を踏まえた精度を上げた予算を組むべきではないか。やむを得ず不足が生じた場合には予備費から捻出すればよい

→予算が大まか過ぎるとのご意見に一理はあるが、講演会費用など枠が小さすぎると企画が練りにくいものもあり、運営面からある程度余裕を持たせた予算としていることにご理解を頂きたい。

→今のご指摘は予算にメリハリをつけ、必要な活動にはもっと予算を割けとのご意見と理解した。実際に自費で活動されている役員もおられ、活動に見合った費用はもっと出すべきと考える。

→その通りである。同窓会を活発にする活動に予算の投じることに異論はない。

・会報と名簿の送付先について伺いたい

→会報は名簿掲載者のうち送付先不明者を除いた 7,000 名余りに、名簿は会費納入者に送付している。

・会報がいつも同じスタイル、表紙もずっと同じである。若い人たちをもっと惹きつけるような内容刷新をお願いしたい。具体的には土木学会誌のように文字を大きくしたり、フリーページを設けていただくことを提案したい。テーマを決めて寄稿を募集すると原稿が集まりやすいと思う。また、原稿の執筆依頼が遅く、1 か月で原稿を書くのは厳しい。

→ご指摘は尤もであるが、予算をかけずにできる内容充実に努めている。以前は 9pt だった文字も 10.5pt に大きくしているが、今回ご指摘いただいた点を今年度の編集に反映できるか検討させていただきたい。

・若い世代の方にも同窓会に入ってよかったと思えるアメ玉（動機付け）が必要である。例えば、若い方が学会等で表彰された場合に同窓会からも記念品を授与して奨励したり、慶事・弔事なども HP に掲載していく等々、何か気持ちがホットになる仕組みづくりができないものかと考える。

→我々も若い時には同窓会の価値が理解できていなかった。ある程度の年齢・立場に達し、非常に有難いものであることが理解できた。しかし、それは同窓会活動に関わってはじめて実感できたことであり、若い世代

に同窓会と接する機会を増やしてもらおう努力が我々側に必要という意味では全く同感である。

・この同窓会も S37 年（1962）に親睦会としてスタートして 50 周年を迎える。何か記念事業を企画する予定はないか

→新校舎が落成するのを期に何か企画してみてもどうか

・同窓会ホームページがリニューアルオープンしたことには色々と期待したい。そういう意味では、20 万円の予算で足りるのか

→大変有難い励ましのお言葉を頂戴した。我々としては、貴重な会費を使わせていただく以上、最初からフルスペックのものとするのではなく、ご意見を伺いながら必要な機能を追加していくような運用を考えている。したがって、今年度はサーバーレンタル費用以外の大きな改造予算は見込んでいないが、機能追加の要望が寄せられれば次年度以降に予算計上していきたいと考えている。

・ホームページの管理を 3 名で行うのには無理があるのではないかと。各職域支部内に H P 担当者をおいて、事務局と連携を図りながら協力する体制を整えてはどうか

→H P の内容検討から立ち上げまでは、とりあえず清水（S61）・深和（H4）・尾崎（H16）でやって来た。今後、ホームページの認知度が上がり、登録作業やメンテナンス作業に人手を要するようになった場合には、ご提案のような体制を整えていただくようお願いしたいと考えている。

・会員専用ページを設けて I D とパスワードを会費納入者にのみ付与するとの方針には賛成であるが、具体的にはどのように管理するつもりか

→新規登録フォームより、会員登録の申請が行われると I D ・ P W が自動的に発行され、入力情報が W G メンバーに転送されるようになっている。そこで、会費納入者リストと照合した上で、未納者には会費納入のお願いを、納入が確認できた方には I D と P W を返送するつもりである。

・一旦、I D と P W を取得した者が次年度に会費納入しなかった場合には、どう対処するのか

→まずは会費納入のお願いを差上げた上で、それでも振込いただけない場合には承認を取り消すような措置を講じたいと考えている。

・S 3 0 年代の同窓の中には故人となられる方も出てきている。このような方の中に会費の納入を銀行自動引き落としで行っていたため、亡くなってから 2 ～ 3 年の間、会費を払い続けた方を知っている。このような事態が判明した場合にはご遺族に返金すべきと考えるが

→物故者の情報は個人的な付き合いで伝達されるケースが多く、正確に把握できていないのが現状である。当然、亡くなられたのちに会費納入が確認された場合には、ご遺族に返金している。

合 議 事 項

・都市環境学科の卒業生が生まれる 2 年後までに、同窓会の統合方法や名称をどうするか具体的な議論をはじめ、会費の金額や徴収方法に派生する同窓会の今後の運営方針について議論を始める必要があることから、準備委員会を設置する。

・リニューアルオープンした同窓会ホームページに関しては、同窓会の諸問題（会費未納・世代間格差等）の解決に向けた有用なツールとなり得るので、評議員各位におかれては普及にご協力いただくとともに利用方法に関するご意見を積極的にお寄せいただきたい。

以上